

## 【背の高い岩から教わった水害の話】

福岡県

久留米信愛中学校

三年

落石

万緒

私の家の近くに、中央公園という公園がある。私は幼い頃からそこで自転車の練習をしたり遊んだりしていた。中央公園にはたくさん岩がある。その中でも背の高い四角い岩が公園の端の方にある。この岩は何なのかと疑問に思い母にたずねてみたところ、これは水害の石碑だと教えてくれた。私はその水害がどのような水害だったのかが気になり、調べることにした。

まず、インターネットで調べた。その水害は昭和二十八年西日本大水害と呼ばれていると知った。筑後川新聞のページによると、昭和二十八年の梅雨は長く続き、平年の四〜五倍の降雨量だったそうだ。久留米市合川町の堤防が決壊するなど、下流だけでも二十六箇所も破壊したそうだ。この水害でも死者は百四十七人、負傷者は五千人近くいたそうだ。調べてみて、家の近くにもたくさん被害があったことを知り、驚いた。

また、家の近くに「くるめウス」という施設があり、水害の展示があることを知った。そこでは魚などの川の生き物を見ることができるので、幼い頃からよく訪れていた。でも水害に興味を持ったことがなかったため、水害の展示をじっくり見たことはなかった。だから行って展示を見ることにした。くるめウスにはたくさん資料が展示されていた。その中には昭和二十八年の水害の写真もあった。水没した久留米の街、濁流が渦巻く日田の街、建物が崩壊している原鶴温泉街など、悲惨な写真があった。また、ボートで避難する人々の写真もあった。私はこの写真を見て、祖母から聞いた話を思い出した。祖母は昭和二十八年当時はまだ幼い子供で、佐賀県に住んでいた。祖母の妹は曾祖母のお腹の中だったそうだ。家は床上浸水し、ボートで避難したそうだ。この話を聞いたとき、驚きはしたがどのような感じだったのか想像できなかった。この写真を見て、祖母たちは必死に逃げている様子が目に浮かんだ。

水は大切な資源であり、私たちが生きていくために必要不可欠なものだ。でも時々甚大な被害をもたらすことがある。次に私は水害を防ぐための取り組みを調べた。川の氾濫を防ぐために、水門や排水機場で外水・内水対策を行っているそうだ。また下流部では高潮堤防築造、花宗水門建設など、高潮対策を促進している。他にも堤防の断面を広げて強度を上げたり、堆積した土砂の除去を行ったりしているそうだ。水害を防ぐためにたくさんことが行われていて、安心した。

平成二十七年七月九州北部豪雨や令和二年七月豪雨など、近年大きな被害をもたらす水害が度々起こっている。私の家の近くの大きい通りも、たくさん雨が降ると冠水してしまう。自分たちの命を守るためにはどのような行動をとればよいのか考えた。大雨の日は川や水路には近付かない。また地下も危険だと思うのでできるだけ行かない。家族でハザードマップを使い避難経路や避難場所を確認する。防災バッグを用意する。たくさんできることはあると思った。私の家では防災バッグを玄関の近くに置いている。もしものことがあったとき、すぐ逃げられるようにするためだ。これからも「もしも」のことに備えて防災対策をしていきたい。

水は大事なものでもあるし、怖いものでもある。これからの生活で、水害などを防ぐ防災対策など、自分でできることはきちんとしたい。そして、誰もが「水から身を守る」ことができるようになり、次のステップの「水を守るにはどうしたらよいのか」に進んでいきたい。そして、サステナブルな世の中になっていったらどんなにすてきなことだろうか。